

◇ 1 事業報告 ◇

(1) 組織作り及び事業計画作成 4月21日(月) 柏崎市立第三中学校にて

(2) 《教育講話研修会 ①》 11月11日(火) 柏崎市立教育センターにて

演題 「防災力革命」

講師 中越防災安全推進機構地域防災センター

センター長 諸橋 和行 様



《講演の概要》

○防災とは「①災害予防 ②災害への応急処置 ③防災の復旧対策」である。

そして、災害から自分を守る。教職員ならば、児童生徒を守る、そのための方策の一つが防災教育である。



○ 子どもが学校にいる時間は、1年間の2割でしかない。この時間だけの安全を目指すのではなく、全ての時間において児童生徒を守ることを目指すのが防災教育である。

○ 子ども自身の生き抜く力を育むことが防災教育。この防災教育の主役は子どもであり、主体は教職員である。

○ 防災教育を進めようとするすると脅しの防災教育になりがちであるが、自然には人間にとって恵みの面と災いの面があることを教師自身が認識することが大切である。

○ 防災教育は、「知っていて行動でき」るまで責任を負う必要がある。問うべきは知識よりも姿勢(主体性や自発性といった意欲)である。『姿勢の防災教育』といえる。

(3) 《教育講話研修会 ②》 11月28日(金) 柏崎市立教育センターにて

演題 「差別の本質に迫る ハンセン病や部落問題を考える」

講師 敬和学園大学 教授 藤野 豊 様

《講演の概要》

○ 差別は意識の問題か

・現代ある差別の原因は現代にあり、個々の差別ではなく差別構造を問題にしなければならぬ。また、問題の解決には、差別の連鎖を打破すること。

○ 私の【差別の連鎖】

・私の認識 アジア・地域・マイノリティから見た歴史

開化と復古の明治維新→産業革命下の労働者・農民・スラム住民→アイヌ・沖縄・植民地の人々→帝国のマイノリティ→ファシズム下のアジア・民衆→戦争中の「非国民」→戦後改革と被差別者→高度経済成長下の炭鉱・東北農民→マイノリティと共生する日本・アジアと共に歩む日本

○ 差別の連鎖 差別の復権

・開化と復古(旧慣温存) ・帝国の発展と排除の構造 ・戦争と差別(ファシズムの疑似平等)
・戦後民主主義のなかの差別

○ 新たな差別の創出

ヘイトスピーチが公然と行われている今日は、正に差別が復権・拡大しつつある。これを許すことなく、差別は無くせるという確信をもって差別をしない子どもを育てることが教育の責務である。



◇ 2 成果と課題 ◇

今年度も「防災教育」と「人権教育、同和教育」の視点で活動を行った。どちらも我々教職員の日頃の意識のもち方が問われる内容であり、深く考えさせられる研修であった。次年度も、激動の社会に出ていく子どもたちにたくましく生きていく力を育む学校の在り方について考えていきたい。